

(意見シートを通じて後日提出された主な意見も含みます)

「ミライ構想」に関すること

まちづくりの基本的な考え方	・今の学生は、生まれた時から人口は減少し、経済は停滞していたので、日本が右肩上がりで成長するイメージは持っていない。 ・今の段階で<u>成長社会から成熟社会への転換という表現は、現状認識が遅れているという印象を持つ</u>ため、表現を調整した方が良い。
	・「行政がリードするまちづくり」から「多様な主体が楽しむまちづくり」へと謳っているが、このとおりだと思う。<u>市民や民間が、自分達で色々と自由に取り組む事ができるような、まちづくりをしていただきたい</u>と思う。3つの変えるも特に必要であると思う。<u>市民が自分達の事は自分で考えて生活できるという事をしっかりと書いていって欲しい</u>と思う。
	・行政がリードするという事が市民には安心感を与えていたというか、それを急にみんなでつくるとするのは、突き放された感じがあるかもしれないので、<u>リードという言葉以外の言葉が思いつくと良い</u>。

「ミライ実現戦略2030」全般に関すること

つくるともに	・いずれも「<u>ともにつくる</u>」という表現がある事は良い。デジタルを活用するとか、考えを変えるチャレンジするという中で、自分達だけでなく、市からもあるような、<u>双方向のアプローチがあるという寄り添うイメージが良い</u>と思う。
--------	--

「ミライ実現戦略2030」主に取組方針①に関すること

こども・学び	・<u>(公的な学校教育との) 共存、連携</u>というような、書き方に必要がある。山間部などこどもが減っている中で、色々な機会や経験をしようと思うと、キャリアを形成する事は決して簡単ではない。<u>公的な学校教育が受け皿になりつつ、連携しないと実現しない事が多いと思う</u>。
	・こどもについて、何が自分の成長につながるか、他者とつながって何ができるのか、自分だけでは考えが限られているため、<u>具体的に何ができるかという情報も提供してあげると、こども達に実感が湧いて、こどもが主体となって次のステップに移っていくと思う</u>。
	・こどものために、と書くだけでなく、<u>こどもの声を聞くという事を本気でやるという事を書いても良い</u>と思う。声を聞いて、受け止めて、実現していくというニュアンスを持つと良い。
	・「こども」の育成に関しては、<u>教育委員会と首長部局の協働が絶対条件</u>。組織再編も含めた、あくまで子供目線で成長を後押しする仕組みづくりが重要。 ・豊田市は、新たな産業が次々と生まれ、仕事があるまちを目指す必要がある。そのためには<u>子どもたちに発明家、起業家、社会活動家への学びの芽を育む支援が必要</u>。

つながり合い・地域自治

・中山間地域、都市の人含めて高齢化が進んでいる。ニュータウンでも、高齢世帯で組には入っているが自治区の組長は遠慮させて欲しいという人が増えている。加入率は高いが担い手の減少という事について、特に注力する取組だからこそ、<u>担い手の減少は対応するべき</u>。
・こどもが町内会長をやるような事例も出ている。NPO化、ワーカーズコープ化など事業体化して、<u>新しい形で双方支え合ったりしている事例もあるので、そういった検討も必要になる</u>かもしれない。
・65歳まで働く事が当たり前。<u>65歳を超えてからしか参画されなくなっている</u>。今後70歳まで働いてからという事になると、地域デビューが遅れ、そういった事も自治区運営の課題になっていると感じる。 ・<u>労働力を確保する事と、自治区の運営を担うところが相反するようなところがある</u>。
・中山間地域の人口が減っていく課題について、拠点連携型である程度支えられるとしても、どこかのタイミングで地域が支えられなくなる事が考えられる。<u>地域の拠点をどう考えるか、具体的な事業の中で考えていった方が良い</u>。
・豊田市は現役世代が大勢いる。<u>現役世代が、副業という形で地域のコミュニティに関わっていく事が徐々に増えていくと良いと思う</u>。
・住民の方がこの<u>まちに住んで本当に良かったと思ってもらうには、地域の底力が無いと無理</u>だと思う。
・<u>もう少しつながりとは何かという事を掘り下げていかないと、町内会に入っているから良いか、という事にならないか不安に思う</u>
・<u>つながりは自治体の範囲内での物理的なものだけではない</u>。市として、どんな事があったらつながりやすいのか、災害時に人が見える環境づくりなどにも考えを及ぼさなければならない。
・住民のみなさんに、ではつながってくださいと言っても、普通の人は面倒くさいなと思う。例えば、みんなで草刈りなどをして、そこで隣近所とつながるなど、<u>ラストをつくってあげないといけない</u>。
・高齢者、福祉、その他コミュニティで同じような事をバラバラでやっているが、これからは<u>地域でまとめて、隣の地域にも影響を及ぼすという事を考えていくのもっと楽しく活動できるのではないか</u>。
・人口減少の中でつながりが大切だと感じる。年齢を超えたつながりをつくっていかうと思うと、<u>義務教育の中でつながりを取り入れながら価値観をつくっていくという事が大切である</u>と思う。
・うまくいっているところはつなぎ役の人がいる。<u>つなげるのが得意な人、つなぎ役の人をいかにたくさんつくっていくかという事もつながりを機能させるコツ</u>だと思う。
・<u>自治組織の再検討が必要</u>。戸別参加から個人参加へ。自治会長や役職の輪番制の是非。地域経営をする自治組織の育成。自治組織への予算配分など。

（意見シートを通じて後日提出された主な意見も含みます）

「ミライ実現戦略2030」主に取組方針①に関すること（続き）

愛着・誇り 情報発信	・（情報発信について） <u>受け取り側が主体的にその情報を自ら掴もうとする機運づくり</u> というところも、 <u>何かしたい</u> し、アイデアがあれば盛り込んでいきたい。
	・「クルマのまち」のアイデンティティづくり」を入れたい気持ちはわかるが、これだけ浮いて見える。これは <u>シティプロモーションの方に入れば済むのではない</u> か。
	・クルマのまちから、 <u>モビリティのまち</u> への転換を打ち出しても良いのではないか
多文化共生・人口	・日本は女性や高齢者の労働参加で対応してきたが、今後いよいよ無理になっていく。 <u>外国人の方を労働力としてどう考えていくかも検討しないといけない</u> と思う。
	・「外国人との共生に止まらず、地域をともにつくっていく主体として考える」という考え方があり、今後、人口減少に当たって、地域の町内会などの組の中で、 <u>そういう方も仲間の一人として捉え、地域の町内会を担う人の一人として捉えないといけない</u> 。
	・本当に豊田市が大好きで、死ぬまで豊田市に住みたいという覚悟を持っている人達がいる。その人達は、自分のお墓をどうしようという事まで考えている。 <u>今は労働力としての視点があると思うが、本当に日本に来て担ってもらいたいとすれば、その人達の人生を背負っている事になる</u> 。だからこそ、行政も覚悟を持って受け入れる体制づくりが必要であると感じる。

「ミライ実現戦略2030」主に取組方針②に関すること

産業・経済・人口	・もし産業が大きく変わったりしたら、対応できない。 ・今回、そういった予測できないミライを使うという事で、 <u>産業構造がガラッと変わるという事も踏まえて書いた方が良い</u> と思う。
	・単純な人口問題ではなく、 <u>労働力の需給バランスがひっ迫する中で、今の社会、産業をどう維持していくのか</u> という視点も必要。 ・いろんな世代の人、国籍の人、社会の構成員が、何らかの役割や働きに参画しないと維持できないのではないか。
	・労働力が不足していくという事は、生産性を上げないと維持できない。もっと <u>資本集約的な産業構造に変えていくような支援やAIなどの新しい技術を利用するための支援を押し出していかないといけない</u> と思う。
	・ <u>産業が変わったときに、最後に何が人口を支えるか</u> というと、 <u>まちの魅力</u> だと思う。
	・ <u>人口減少については、議論が難しく、現時点で方向性を定めるのは、厳しいと思う</u> 。多様な選択肢を示しておいて、今後市民の方がもう少し時間をかけて決断していくという可能性を残していくことが重要ではないか。

新産業	・ <u>こども達は、仕事があれば豊田市に住みたいという子がほとんど</u> 。地元の学校に通って、地元に住みたいと言っている。新しい仕事をつくるという事が資料④－5（1）にあるが、ものづくり産業の仕事しか創出されていない。こども達のミライは働く場所がなければ明るくないので、 <u>新しい産業はものづくりだけでなく、違うところはないのかという事も書いてほしい</u> 。
	・ <u>耕作放棄地や遊休農地を利用して種子生産や、トウモロコシ、大豆、飼料米といった飼料穀物の産業を始めるのはどうか</u> 。バイオテクノロジー企業も誘致し、新品種の開発を市が支援すれば、新たな産業領域（仕事）が生み出せる。
都市環境 （土地の保全・管理）	・中山間地域でも地域拠点に集約すると、林業や農業、いわゆる <u>山林や農地の保全が可能なのかという大きな心配が出てくるが、そこについて言及が少ない</u> と思う。将来都市構造で拠点に集めるが、それ以外のところではこういう事をやっていきますというバランスをどうとっていくのか、総合計画では示さないといけない。
	・農地林地の保全を優先するのか、農業林業の産業を優先するのかで考え方は大きく変わってくる。 <u>豊田市は東海豪雨からの流れであるため、保全を優先して考えるのだと思う</u> 。
	・保全だけではなく、積極的な活用を目指すべき。（エネルギーや資源として）そうしないと、定住人口を維持できない
	・ <u>農地山林を守るという事は気持ちの良い意見ですが、それがどこまでできるのか</u> 。人を集約したら、その部分はなくなっても良いという気もする。
都市環境 （ネットワーク）	・能登半島地震では、 <u>厳しい集落でもここに戻りたい、ここで暮らしていきたいという事を言う方もいる</u> 。人間は効率性だけで生きているものではないと思う。
	・資料④－6「適正な土地利用の推進」で中山間、山村、農地の保全という事を言っていると思うが、どう守るのか、実際にどうやるのか。資料④－5「新規事業や展開や、新製品開発へのチャレンジの促進」のところで、 <u>既存の産業である農業や林業にも触れるようなわかりやすい記載があると良い</u> 。
	・豊田市というのは面積も広いため、衛星的なまちをもっとつくり、そこへ交通を発達させる事で、中心部だけが良いのではなく、 <u>市の中のそれぞれのまちが力をつけていくという発想に変えていかなければいけない</u> 。
脱炭素	・「安定的かつ効率的な移動・情報通信環境の確保」これは市が行うだけではなく、 <u>住民が共同でつくり上げていくというような事を書いてもらっても良い</u> と思う。
	・主体的に取り組む事業者よりは、置いていかれる中小零細をどうサポートしていくのか、 <u>取り残されないように全てのサプライヤーに取り組んでもらうというような書き方が良い</u> と感じる。

地域会議への諮問・答申

第9次豊田市総合計画の策定に向け、同計画に掲げる本市のまちづくりの方向性である「（仮称）ミライ構想」のめざす姿や都市構造の基本的な考え方について、地域会議への諮問及び市長へ答申を行うとともに、各地域会議の委員との意見交換を実施

- 期 間 諮問：令和5年8月3日（木）～10月3日（火）
答申：令和5年12月7日（木）～令和6年1月31日（水）
- 参加者 ○28地域会議委員（合計約470名） ○豊田市長又は副市長

各地域会議からの答申における主な意見

○ミライ構想に対する意見

【めざす姿・まちづくりの基本的な考え方について】

- ・住民が将来の豊田市に期待が持てるようにするためにも、教育・居場所・子どもを育てる親世代へのケアに加えて、高齢者が子どものケアをする仕組みや、地域の知恵と暮らし・文化を子どもに伝承する仕組みなど、**子どもに関する「未来への投資」を前面に打ち出すべきである。**
- ・**地域課題の解決には「つながり」が不可欠**であるため、「つながり」を重要視した「（仮称）ミライ構想」のめざす姿とまちづくりの基本的な考え方は妥当である。
- ・**「つながり」の重視、「次代を担う子どもたちに継承する」視点は大切**である。
- ・住民同士が仲よく、支え合うことができ、生まれ育った故郷に、若者がいつか戻ってきたいと思えるまちづくりを目指してほしい。

【都市構造について】

- ・豊田市は多くの町村と合併した市であるため、**それぞれの地区を活かせるよう各拠点のサービス機能を確保する都市構造の考え方は妥当**である。
- ・「（仮）えきちか居住誘導エリア」など都市部中心のイメージが強いため、**山村部のまちづくり**が見えてくるような表現についても検討していただくよう要望する。
- ・市内の**拠点間移動に係る交通ネットワークの強化**は重要であるが、**拠点内での公共交通機関の充実**についても検討してほしい。また、車の利用者だけでなく、自転車や歩行者にとってやさしい環境整備をお願いしたい。
- ・各拠点に最小限の基本機能を付与しつつ、**独自性・特色を生かした拠点づくりとネットワークの充実により、各拠点の特色を共有できると良い。**

答申内容について（全体）

各地域会議の答申内容について、**市民への周知・PRや計画上の表現**に関する意見が多数見られたほか、**つながり合いやこども・子育てへの意見**が多く見られた。そのほか、**都市基盤や交通**に関する意見も多くあり、鉄道やバスといった公共交通機関の利便性を求める意見や山村地域での暮らしに対する懸念などの意見が寄せられた。

■その他

各地域会議に対して、令和6年6月～7月に、中間報告会時点での総合計画の検討状況及び答申に対する本市の考え方についてお知らせする予定。

○「つながり合い」に対する意見

- ・**高齢者と子どものつながり**が現在少ないので、つながりの機会を増やしてほしい。
- ・地域には、地域課題の解決に向けて尽力している組織や団体がある。**市にはそのような団体同士が連携し、活動が活性化されるよう、組織や団体を“つなぐ”役割を期待する。**

○「こども・子育て」に対する意見

- ・**若い人も安心して安全に住める、子育てがしたくなるまちづくり**を推進してほしい。
- ・**こどもが地域の歴史や文化、伝統に触れ合う機会の創出**を積極的に行うことで、地域愛の醸成や次世代の担い手の育成に繋がるような取組を実施してほしい。

○「産業・経済・雇用」に対する意見

- ・自動車だけでなく豊田市には良い自然があるので、**自然を活かした農業と林業の産業化が必要**である。
- ・企業も進出したいと思えるような魅力を持ち、観光資源に多くの人が集まるまちづくりを目指してほしい。

○「協働・地域経営」に対する意見

- ・**行政が組織する既存団体の役職が多い。**地区コミュニティ会議の各種実行委員会や地域会議等、市による割り当ての役職だけでなく、民生委員や国勢調査員等、国による割り当ての役職についても**統廃合や負荷軽減を検討いただきたい。**

○表現に対する意見

- ・**全体的に表現が抽象的過ぎる**ので、より具体的な目標値・目標レベル等を示すべき
- ・総合計画はまちづくりの方向性を示す重要な計画だが、市民にはあまり認知されていないので、分かりやすいパンフレットの作成など、**市民に広く周知する工夫**をお願いしたい。